

令和3年度青森県食育推進会議（書面開催）

委員の意見等一覧

項目	委員	意見等の要旨 (第4次計画に基づく施策の進捗状況等に関する評価・提言)	事務局コメント
1 コロナ禍での県民生活と食育の取組	山谷詠子委員	コロナ禍で様々な活動が中止となり、食育活動への影響があったことは確かです。朝食を食べる子どもの割合は、減少傾向です。やはりコロナの影響でしょうか？又、肥満傾向児の割合も悪化しています。やはりコロナの影響でしょうか？（運動不足ですか？外で遊べないことですか？）	<p>コロナ禍での日常生活における制限等が県民の食生活や健康状態にどのような影響を及ぼしたか明確には分かっていませんが、自宅での食事の増加に伴い、簡単に利用できる加工食品等の利用が増え、塩分や油脂の摂り過ぎにつながる懸念されています。このため、県民に対し、バランスのよい食事の大切さと活動習慣の改善を、一層普及啓発していくことが必要と考えています。</p> <p>また、県内の食育関係機関・団体による食育の取組も、コロナ禍で対面活動等に大きな制約を受けましたが、今年度は、オンライン講座の開催やウェブサイトの開設などデジタルツールを活用した取組が目立ちました。今後も、関係者の創意工夫により、新たな手法が積極的に試みられることが期待されます。</p> <p>一方、家庭や地域コミュニティなどで、家族や地域住民が共に食事をとりながらコミュニケーションを図ることについて、その重要性を改めて認識し、働き方改革の推進や、子ども食堂等の「共食の場」への支援など、社会全体で食育の充実に取り組んでいくことが必要と考えます。</p>
	吉岡利忠委員	コロナ禍で各種行事が制限されていますが、小・中校の行事は進められています。朝食を毎日食べる子どもの割合と10歳児の肥満に対しては、積極的に対応しなければならないと思います。	
	浅利由美子委員	今回、19指標のうち悪化傾向だった4つの指標は、コロナ禍で取組が実施できなかったもの2つ、10歳の肥満傾向児の割合もコロナ禍で活動（運動）制限があったためと考えられます。その中でも、工夫して取組をしているのはすばらしいと思います。	
	中村一彦委員	「食」とは、顔を合わせて食べる喜びを分かち合うことでもあると思いますが、特に今は「黙食」「個食」を徹底せざるを得ず、これが当たり前の「孤食」になってしまわないか心配があります。「食べる喜びの分かち合い」を子どもたちにどう伝えるか、難しい課題だと思います。「感染対策」と同時に、「本来の食体験」の伝え方対策が必要になるかと思っています。	
	神嘉徳委員	コロナ禍ということもあり、指標に対する取組状況はやむを得ないところもあるが、制約を受けながらも、それぞれがオンライン等を活用して事業実施していることを評価したいと思います。	

2 朝食を毎日食べる子どもの割合等	山谷詠子委員 (再掲)	コロナ禍で様々な活動が中止となり、食育活動への影響があったことは確かです。朝食を食べる子どもの割合は、減少傾向です。やはりコロナの影響でしょうか？	コロナ禍で朝食を毎日食べる子どもの割合が減少したことについては、休校等により、子どもたちの生活習慣が不規則になったことも要因と考えられます。
	吉岡利忠委員 (再掲)	朝食を毎日食べる子どもの割合と10歳児の肥満に対しては、積極的に対応しなければならないと思います。	なお、子どもの朝食の欠食については、社会全体の問題として捉え、関係機関・団体が家庭と連携して、子どもや保護者が生活習慣づくりの意識を高め、行動するよう取組を進めていくことが必要と考えます。
	浅利由美子委員	朝食を毎日食べる子どもの割合が下がっているのは、全国的な傾向のようです。全県的に全ての年代での取組が必要だと思いません。	
3 学校給食における県産食材の使用割合	山谷詠子委員	学校給食における県産食材の使用割合は横ばい傾向です。平成28から5年経過しても横ばい傾向の理由、要因は？	学校給食における県産食材利用状況については、近年、66%台で推移していますが、米や牛乳、野菜ではながいもやごぼう、水産物ではほたてなど、本県産で周年供給できる品目については、利用率が高くなっており、学校栄養士により、県産食材が積極的に活用され、高い水準を維持しているものと考えています。 県としては、今後、より多くの品目での利用率向上を図るため、冷凍カット野菜等の供給拡大に向けた検討を進めていくこととしています。
4 郷土料理・食文化の周知	浅利由美子委員	令和4年度における県の取組の中で、農林水産政策課が新規事業としている伝承すべき郷土料理、食文化の情報発信に期待します。(小・中学生の食に関する調査を行った結果、郷土料理・食文化の周知度が低いため、これから食育で特に力を入れたいと考えていたところです。)	本事業では、本県郷土料理の伝統的な作り方を伝承していくとともに、身近な食材を活用するなどして、簡単にできるレシピの考案や動画の配信を行うことにより、幅広い世代、特に若い世代にも興味を持ってもらうための取組を展開していきます。
5 SDGsの視点	神嘉徳委員	SDGsへの貢献も視野に取り組みでいきたいとの記載もあるので、SDGsの視点から指標への紐づけなどをするのも良いのではないかと思います。	食育は、持続可能な社会の実現に向けた重要な取組の一つです。御意見を踏まえ、食育の取組を紹介する際にはSDGsアイコンを表示するなど、県民の理解促進を図っていきます。